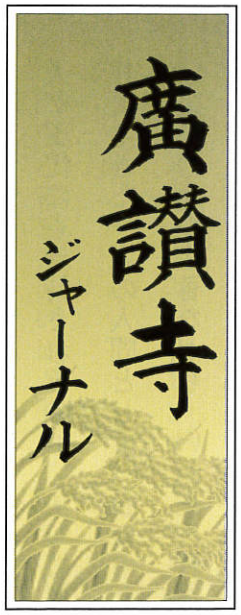


第43号
（発行所）
真宗大谷派
松岡山 廣讃寺
中村区城屋敷町3-30
TEL(052)411-5301
FAX(052)411-5341
携帯 090-1568-4623
E-mail:kousan-temple@trad.ocn.ne.jp

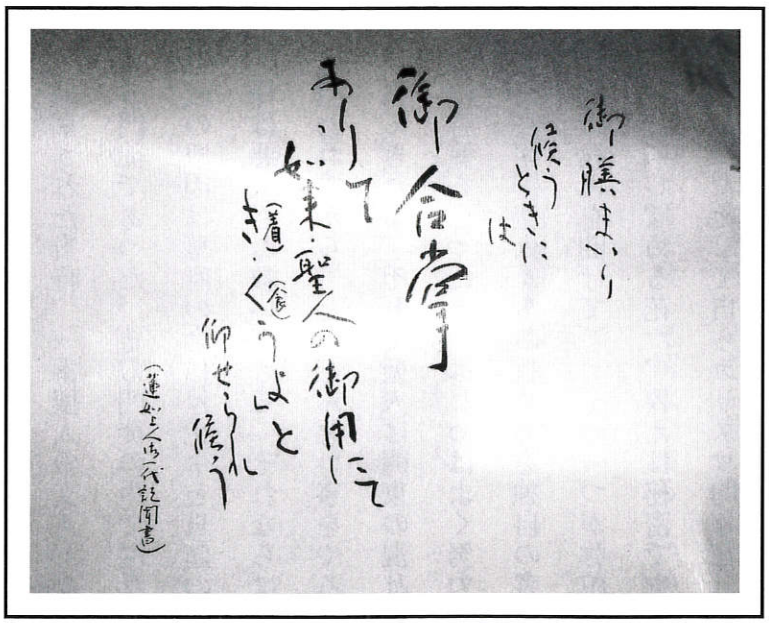
冬を前にして

今年の夏の暑さは特に身にこたえた。そして涼しい季節となり時折、寒い細い風が心に突き刺さる。何かしら寂しい思いが体中を駆け巡る。過酷な暑さから開放されたというのに。

何をしても、この寂しさからは逃れられない。どんなに環境が変わったとしても、この寂しさからは逃れられない。

人は独りで生きていかなくてはならない。もともと初めから孤立存在であるから、寂しさを感じるのは当たり前である。逆に、寂しくない時こそが『邪見憍慢（じゃけんきょうまん）』が浮き彫りになった時である。自分の都合のいい見方をして、自らの置かれたところがわからなくなって麻痺（まひ）しているありさまを『邪見憍慢』という。

親鸞聖人は正信偈の中で、そんな邪見憍慢なわれわれは、調子のいい時はほったらかし、都合が悪くなると、何かにすがろうとする。楽観的になったり、悲観的になったり何とも落ち着かない。そんなわれわれが仏の教えを信じていくことは本当に難しいことだ。だから、一時的ではない無限の『楽』を得ることは到底難しいと言われている。



本当は仏に絶えず見守られているのにもかかわらず、われわれは寂しさを感じてしまうのである。

20組ご命日のつどいに聴聞して

釈　綽智

お盆も過ぎた十九日、上米野の智興寺であった。秋雨前線の影響で猛暑日ではなかったが、蒸し暑いのは変わらなかった。

今日のテーマは「善鸞義絶（ぜんらんぎぜつ）―思いは伝わりますか？思いを伝えていますか？」で、親鸞聖人が息子の善鸞を親子の縁を切るというショッキングで身近な問題である。

本堂はクーラーが入ってて快適なり。隣の女性は日置から来たといわれ、法話を聞く時はできるだけ隣の方と会話するのがいいと思うようになった。一期一会（いちごいちえ）の気持ちで…。

今回の結論は「宗教者としての立場を離れた一人の父親としての苦悩はいかなるものだったでしょう。親鸞聖人が現代にも支持されるのは、決して偉人ではない、市井（しせい）に生きた一人の人間として、私たちと寸分もたがわない苦悩の中を生きながら、いただかれた教えを貫かれたからではないでしょうか」ではないかと思いました。

帰京された当時、一番聖人の支えとなっていたのは関東の門徒であった。その門徒の中で混乱が起こっていた。混乱の原因は幕府の念仏停止令と日蓮の念仏批判。阿弥陀様は悪人もお救いなさる。それならば悪い事を行っても救われるから、どんどん悪い事をやろうという考え方が出てきた事。それで聖人は関東の混乱を鎮めるため長男の善鸞を送ったが、はじめはよく努力されたが混乱が収まらず、聖人からの教え方を独自の考えで治めようとした（教えを曲げて）。その一つが弥陀の本願（第十八願）は「しぼめる花」、教えは秘密でやる。といったことでした。そして自らカリスマ的存在となった。この状況を唯円（ゆいえん）らによって知らされた聖人は「ただ念仏のみぞ正しき」と応えられて親子の縁を切る義絶状を送られた。諸般の事情から、きっと断腸の思いで法灯を守られたのだ。わが子であること、少しぐらいの異端は目をつぶって過ごしたいと思うのは常だが、アリの一穴ではないが、念仏衆の内部崩壊が一番恐れられたのではないかと思っ

た。義絶状は直筆ではないが、三重の高田専修寺（せんじゅじ）にあるそうです。

門前に福田兼助の碑が建っている。江戸末期の文政年間に地元の人々の教育功労者との碑文がある。寺子屋教育のあった由緒ある所だなあと思いつつ家路につく。

廣讃寺　秋の境内大掃除について

伊藤和美

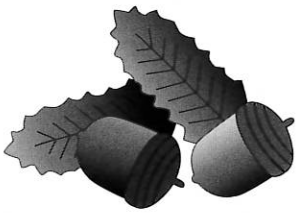
廣讃寺では、秋の彼岸を迎える前に枝打ちと庭の大掃除を実施する。八月下旬に常任委員会を開催し実施日を決めるが、近ごろは九月第二日曜日としている。この枝打ちは一年に伸びた樹木を切り境内をきれいにすることで、門徒の老若男女が参加する。おときの関係で雨天決行であるが、雨が降ったことはない。大きな木は本職の庭師さんに頼み、小さな木を当日実施する。枝を切る人、それをリヤカーに積む人、木陰で草を取るお年寄り、参加者は皆元気に動き会話が弾む。

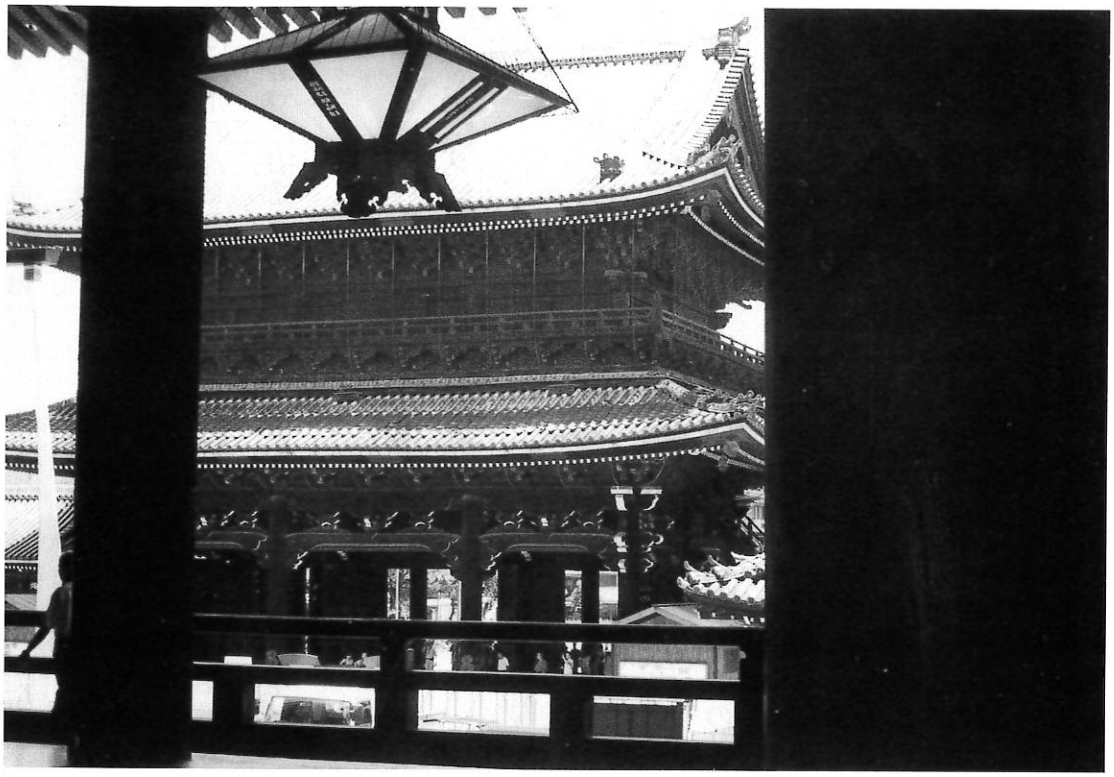
朝八時よりはじめた枝打ちも十時に休憩し、冷たい物を飲む。鐘楼の前、東門の横、庫裏の裏、墓地の中、中庭等やる事は多く皆さん汗だくである。特に今年は暑い。仏事で本堂に座っているより、参加した旧友と木陰でのおしゃべりは楽しい。今年は寺で見かける初顔の人もいる。

十二時おときだ。汗をふきふきおとき場に。麦茶がうまい。おときを食して解散である。いい汗かいたなーと家路に。

最近の参加人員を記しておく。

平成十八年	六十一人
平成十九年	六十六人
平成二十年	六十三人
平成二十一年	六十五人
平成二十二年	五十九人
平成二十三年	六十七人





親鸞聖人 七百五十回御正当報恩講

20組「団体参拝」

平成二十三年十一月二十四日（木）

午前七時集合

（参加費）お一人様　七千円

10:00　報恩講参拝
12:30　昼食
14:00～15:30　黒谷光明寺→京都市内にて買い物
19:30　名古屋・解散

行事予定

十月八日（土）七時半　同朋委員会・例会（役員は七時）

十九日（水）二時～四時　学習会

二十八日（金）十時　二十八日講・女人講

十一月十二日（土）七時半　同朋委員会・例会（役員は七時）

十九日（土）二時～四時　学習会

二十八日（月）十時　二十八日講・女人講